

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所ふうり			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 17日 ~ 令和7年 12月 12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 17日 ~ 令和7年 12月 12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児とその保護者が安心感を持ち通所している	・古民家の持つ温かい家庭的な雰囲気を活かし、子どもと保護者にとって安心感を持って通所できる居場所づくりを行い、家庭内での日常生活に則した身近な困り感への支援を行っている	・引き続き子どもが安心して、通所を楽しみにする事ができるよう、きめ細やかな声掛けや支援を行う
2	・利用児と保護者の気持ちや意向に寄り添った支援 ・利用児と保護者への丁寧な関り	・保護者とのやりとりを日ごろから丁寧に行い、気持ちに寄り添った支援を心掛けている ・成長や発達が気になる段階からの早期療育支援、子育て支援を行っている ・子どもにも保護者にも丁寧な関りが出来るよう、指定基準以上の人員を配置し、手厚い支援を行うための環境を整備している	・保護者のレスパイトケアにつながる柔軟な受け入れ ・送迎を必要とする家庭との連絡
3	・職員の質の向上	・法人全体で質の向上のための研修を定期的に行い、職員全員のスキルアップを目指している ・職員間でのコミュニケーションの機会を増やし、支援に関わる小さなことでも相談し合える環境づくりを行っている	・職員の待遇改善 ・職場環境の整備 ・研修や資格取得のための機会

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもの活動スペースの確保 ・設備や備品の増設	・収納場所に限りがあるため、備品（おもちゃや遊具、絵本等）を増やすことができない ・活動スペースが狭いため、粗大運動を行う時、プログラムに制限がある時がある ・建物の老朽化	・置き場や収納方法等の更なる工夫 ・収納の中に何が入っているか写真や絵を使い明確な表示をし、子どもにも職員にもわかりやすくする ・収納を工夫することで生活空間を広げる
2	・父母の会の活動支援や保護者会の開催、兄弟向けのイベント、交流の場を設ける	・場所の提供（事業所が狭い）が難しい ・感染症の問題がある ・仕事を持つ保護者が増え、日程の調整が難しい ・父母の会の必要性	・家族間の交流については、県や市、近隣の大学でのイベント情報を事業所の玄関口などに掲示したり、お知らせすることにより、参加を呼びかけている ・父母の会や保護者会については今後保護者の声をききながら必要に応じて検討していく
3	・年度の途中から受け入れが希望に添えない場合がでてくる	・年度のカリキュラムを組む時に定員いっぱいに組むため、市や保育所、幼稚園等から受け入れに関する要望や紹介があっても希望に添えない場合がある	・キャンセル枠での対応